

# 三郷わせだ健康友の会だより ふれあい MWK 三郷わせだ健康友の会

## 障がい者福祉団体支援 チャリティーコンサート開催

コロナ禍のなかアカシア会主催のチャリティーコンサートが十月十七日開かれ、二五〇名が参加した。大場敏明理事長は、「昨日も防具をつけて診察。感染の危険と隣り合わせのとてもないたたかいは続く。歩みを止めるわけにはいかない」と開会挨拶。三密を避けるため文化会館の大ホールオヤラ・ポルタの利用者・職員の皆さんがドアの開放、手すりの消毒などを行い、コロナによる感染者を出さな



総勢 20 名の「ミサトミュージックオーケストラ」から小編成での参加です

いという法人としての緊張感と気配りがひしひしと感じられた。

開演直後のドラムとトランペットが強烈に響くジャズ演奏、コロナ禍でのよんだ空気を吹き飛ばし一気に音楽の世界に引き込まれた。恒例のヘルマンハープ演奏ではアカシア会のために作詞・作曲された本日初演の「アカシアの木の下で」が癒しの音色の中に響く。カイマナヒラなどによる



「ハーラウ フラ レアレア」の皆さん。フェースワールドをつけての踊り。笑顔も素敵でした。

フラダンスはハワイにいるウキウキした気分にしてくれる。

第二部のピアノ演奏には塩沢美智子先生と十五歳から同氏にピアノを師事した石塚まみさん師弟が登場。塩沢先生の「ソナタ月光第一楽章」、「エリーゼのために」などのピアノソロ、



石塚まみさん(右)作曲の「ピアノ調律師」を塩沢美智子先生(左)と連弾

石塚さん作曲の歌の引き語り。続いて金子みすゞの詩集を流ちょうな英語もまじえた塩沢先生の朗読に合わせた石塚さんの迫力満点の即興演奏。最後はお二人による連弾。時間のたつのも忘れる楽しい時間だった。

新井教代会長のコロナ禍のもと細心の注意を払いながら素晴らしいコンサートを開いていただいた皆さんへの感謝の言葉で閉会した。(岡田)

## 新役員自己紹介



鈴木保弘さん 48才  
江戸川区在住

クリニックふれあい早稲田医事課で昨年四月から世話になっております。また、この度友の会の幹事をお引き受

けるようになりました。どうぞ、よろしく願います。

これまで健和会のみさと健和病院や、柳原病院などで勤務してきました。それ以前は、バスの運転手や障害者施設の指導員等も経験しております。

勤務して感じるのは、院長先生、文江先生が患者さんからとても信頼されていることです。先生方への信頼を損なわぬよう日々気をつけています。友の会役員としては、会員の皆様と一緒に、この地域にふれあい早稲田があつてよかつたと思ってもらえるよう、クリニックを支えていきたいです。

私事ではありますが今年八月、突然胸の痛苦しさに襲われ、救急車で運ばれました。心筋梗塞でした。心臓が悪いと言われたことはなかったので、正直びっくりしました。血圧が高かったから？ストレス？食事？運動不足？原因を考えると色々思いつくのですが、何かひとつ特筆した原因があるわけではない、生活を全体的に見直す良い機会かと考えています。皆様も日々の体調管理にはお気をつけください。

**お詫び** 全号二〇年度役員記事に鈴木さんが抜けました。お詫びします。

友の会と共に過ごした6年半 後編

太田 滋也

四十年前の九月下旬、仕事でイランに行きましたが、テヘランについた翌日の午後、テヘラン空港がイラク軍機に奇襲攻撃されて二機が破壊され、イライラ戦争が始まってしまったのです。その日の夕方から電話はもちろん全ての国際回線が停止、空港も閉鎖されましたがイランは日本に好意的で、その後も順調に一月半程仕事することが出来ました。



筆者とアララト山

十一月初め帰国することになりましたが空港は閉鎖されていて、陸路で東のパキスタンか西のトルコ経由しかなく、前者は不安だったので後者となり、十一月三日JALのバスで、昼すぎに日本大使館前から出発しました。直線距離でも六百km位あるトルコとの国境(バザルガン)までをイラク機を避け、暗くなるとヘッドライトを時々パット灯け、あとは星明りを頼りに飛ばして翌朝八時に到着し

ました。国境からは直線四百kmのエルズルムまでバスで六時間掛かって到着、翌日トルコ航空機でアンカラに着き、JALの救援機で帰国しました。延べ二五時間の緊張で苦しいバスでの移動でした。唯一良かったのは国境のトルコ側で、旧約聖書に出てくる「ノアの箱舟が大洪水で流され漂着した場所」と言われているアララト山(五一三七m)を見ることが出来たことでした。十一月七日の夕方、成田空港から車で帰宅する途中ラジオで、大ファンだった越路吹雪さんがその朝に亡くなったことを知り、びつくりしましたが、これも想い出の一つです。以降バスの旅行は苦手になり、バスハイクを遠慮して皆さんにはご迷惑を掛けました。



11・8ウォーキング 29名参加。江戸川を南に歩き折り返し点のつくばエクスプレスの鉄橋下で

11・14おしゃべりサロン 第31回  
今回は学術会議を話題にしました。戦前にも京都大学の滝川教授が追放されるという事件がありました。絵画や作文教育が罪に落とされた時代を掘り起こした番組「想画と綴方」戦争が奪った子どもたちの「心」が丁度、十一月十二日NHK・BSで放送されました。山形県の長瀬小学校が遺っていた子どもたちの自由に表現した「想画・綴方」の「画文集」を見ながら話し合いました。指導した教師も検束されたのです。そして国の進めた道は。(藤川)

『読んでみよう!』(5)  
『求めない』加島祥造著 ¥5000  
小学館文庫 二〇一五年十月刊

前回の「ボケないヒント」の中に加島祥造氏との対談の記載があり紹介する本の解説者が帯津良一氏。一風変わった内容なので戸惑いながらお読みください。

「求めない」すると始める文章が長短百篇程あり、著者は翻訳家・詩人・墨彩画家で信州の「伊那谷」に棲む。孔子の「論語」より少し古いと言われる老子「老子」の英語訳から日本語訳を著して(中国語と英語は構文が似ているので、中国語→日本語より正確といわれています)

る(タオイストと言われる程の「老子・莊子」に関する著作が沢山ある。彼は、ヒトはそもそも「求める 存在」(五欲・煩悩)であることを認めているが「求めない」事が重要なのだと説く。

コロナ禍が紆余曲折して続いている中、気の緩みや馴れが大敵です。そこで「気分転換」や「リフレッシュ」のためにこの本をお勧めします、

「求めない」すると「自然」になる  
だって自然はひとに求めないからだ!  
「求めない」すると人との調和が起る  
「求めない」すると、心に平和が広がる  
読み続けると「そうだよな」と思いあたるでしょう。(久々湊)

**友の会の行事等**

- ◎11・29ミカン狩り(持ち帰りのみ)  
三郷市三郷一豊田ミカン園へ徒歩で歩けない方は車送迎あり。雨天中止  
午前八時半クリニック前集合  
参加費・百円 申し込みはクリニックへ
- ◎12・5クリスマス会  
コロナ禍感染防止のため中止
- ◎11・10初詣ウォーキング コースは検討中。午前八時半ふれあい前集合
- ◎11・23おしゃべりサロン  
南京大虐殺研究者をお迎えします